

## 平成 27 年度第 2 回 せいかつチーム会議 (H27.8.20)

### 報告

前回チーム会議にて確認された年間検討テーマについて、今後検討していくテーマの選定、および具体的な話し合いを行いました。

#### **1. 「地域移行（施設入所や長期入院等からの地域生活への移行）」**

##### ○地域移行支援の見える化

地域移行の支援等が目で見てみんなで分かるものを作成していく（流れ・役割・連携・資源 等）

内容：支援の主体機関が確認できるもの

各支援機関や多職種等が分かり合い、協力の必要性が理解出来るもの

資源の現状がわかるもの 等々

方法：想定 1 ケースをもとに作成（→今後：全体化へ広げていく）

狙う効果：不足社会資源を洗い出す、各機関の連携協力相互理解の促進へ繋げる 等々

今年度・来年度以降の目標：

今年度：見える化作成（→来年度以降：不足社会資源の課題検討）

今年度：支援者がまず理解（→来年度以降：ご本人用作成、本人理解支援を検討）

今年度：地域移行の希望ある方（→来年度以降：本人エンパワメント（本人が地域に出たいと思える取り組みを検討）

##### ○その他 必要な事

入院者：病院ワーカーと地域支援者が分かり合える機会（同じ舞台でケース検討等）が必要。

精神障がい者支援の拠点：市外では精神科病院が拠点となって、グループホーム等の資源も多く、病院ワーカーとも連携しながら、地域移行、生活支援、再出発の流れが出来ているが、伊勢市には、拠点になる精神科病院やデイケア等がない現状。

#### **2. 「敷居の低い相談先 + 居場所」**

ひきこもり状況等で病院にかかりにくい等、受給者証が申請出来ない方が、受給者証なくても利用できる資源が必要。

フリースペース：本来は、障害や病気等の受容の途中経過等の方でも利用しやすいもの。

今後：下記調査等を行い、現状と照らし、本来のフリースペースの在り方の提案等をまず目指す。

（ニーズ把握、現状フリースペースの利用実績、他市町の状況 等）

#### **3. 自立支援協議会への「各会議からの課題報告・提案書」よりの議題**

##### ○就労継続支援 B 型事業所の利用にかかる就労アセスメントの特例についての検討

一般就労経験がない方等が B 型支援を利用する際には、一定期間就労移行支援事業に通所し、必要な就労支援の方向性を確認するという制度。現状、B 型支援事業以外の資源の選択肢が少ない為に B 型支援を利用せざるを得ない場合でも、就労移行支援でのアセスメントが必要という課題がある。

→通所支援に選択肢の幅が必要という検討を行っていく